



# 善正寺だより

〒512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

TEL: 0593-31-1670

FAX: 0593-32-0733

掲示板法話

## 法難の歴史を伝える十三日講

### 今こそ学ばんいのちの縁

えにし



この標語は、十三日講を迎えるに当り、その由来と意義を明らかにしたいとの願いから詠んだ自作の拙歌です。

十三日講は、四百年以上の歴史と伝統を担う法要で、通常と少々異なるお荘厳と型式でお勤めされます。「二代前(参詣者から)本尊様に向かつて左側」に本願寺第十一代・顕如上人の御影像を奉懸し、丁重なお荘厳を致します。午後の法要に引き続き「門主様から賜った御消息披露があります。」

昭和五十八年までは年八回、「門徒のお宅でも数カ所以上開催、四、五年に一度というサイクルで巡回されました。御消息も江戸時代末期の広如上人、明治初期の明如上人から下付された難しい文語体、流麗な草書体であったため、五十八年に申請して現「門主から現代に即応した御消息を下付されました。また、在家での開催が次第に困難になったため、年三回に限定し、三重組全体として丁重にお勤めしようという改革がなされました。」

ところでなぜ、この法要には顕如上人の御影像を奉懸するのでしょうか。顕如上人の時代は、蓮如上人が晩年

大坂に建立された石山本願寺が織田信長の天下統一の障害となり、戦国時代の争いに巻き込まれました。また、蓮如上人の六男・蓮淳師を開基とする伊勢長島の願証寺も信長勢の攻撃対象となりました。十年に及び石山本願寺籠城戦や長島・願証寺を中心とする一向一揆の殉難者は何十万とも言われます。戦国の世が治まった後、後世の「門徒方は犠牲となった諸先輩を追悼する法要を営み、石山退去の後、鷺森、貝塚、天満を経て京都堀川の現在地に至る流転の先頭に立たれた顕如上人の御影像を戴いて法要をお勤めするようになりました。十三日講という名称は、石山戦争の開始が永禄十三年(一五七〇)九月十三日早晩であったという由来が伝承されています。

講とは、いわば「仏法を抛り所とする絆ネットワーク」です。戦国乱世と現代とは時代背景が異なるものの、命の内面的な危機症状はある意味で四百年前より深刻化しています。人間社会が壊れつつあるとも思われます。

家庭の教育機能が著しく衰退し、先月号の「坊主スケッチ」所載のように、驚

### ☆行事ご案内

3月13日(木)午前10時・午後1時

『三重組十三日講』(9年ぶりでお迎え)

講師 葛野洋明先生(大阪)

☆3月15日(土)午後1時半・夜7時半

16日(日)午後1時半

『春季永代経』(お経開きは15日午前10時半)

講師・奈良・尾崎裕正師 連日多数お参り下さい

☆三重組コース:3/29(土)夜7時半練習

※陽光苑慰問3/5(水)10時半誰でもOK。童謡懐メロ

※3/6(木)午後・西勝寺様、花月先生歌の会(参加自由)

◇日校:3月1日(土)4時より 新しいお友達もどうぞ!

◇一経会テレホン法話11冊目の本『逃げたらあかん』発売中  
059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます

◇3/20(木)夜7時・三全仏教婦人会総会(光念寺様にて)

◇3/21(金)11時の部、中日劇場「法然と親鸞」バス観劇  
(参加費1万2千円)善正寺22名参加、詳細は後日連絡

◇4/19(土)仏壇主催「初参式と降誕会」赤ちゃん大募集

くべき家庭の崩壊、親子関係の退廃現象が現れています。フリーター百九十九万人、定職や家庭を持たない大人が増加の一途をたどり、人々の孤独・孤立化が進んでいます。だから葬儀をしない直葬が増え、人間らしいいのちの伝承が困難になっています。宗教の英語は「レリジョン」、「つなぐ」というラテン語が語源です。つまり、宗教は人々のつながり、「縁(絆)」を自覚させる「ネットワーク」の役割があるのです。

苦難の歴史に思いをはせ、闇夜を照らす灯をを仰ぎつつ、真に人間らしく歩む十三日講、お寺でありたいと願っています。



### ☆春 福

四日市市 川崎孝一  
☆首頭取り 生涯初の太鼓打つ  
訪うて 楽しいや 陽光苑に

☆雪踏みて 古跡巡りの礎石穴  
白に寝むも パンプの位置に

☆「母へえ」の 銀簪に亡き母 ダブリ来  
渾身生きし 立つ瀬似通う  
四日市市 釈 弘 運

☆ちちははの「なまんだぶ」に  
手を合わす

お悔やみ申し上げます★

★親類一様(東坂部)九十五歳・一月三十一日(七)ご家族親戚の手厚い介護を受けられ往生されました。 合掌

### 坊守スケッチ

## アロエの花



私の友人から手紙がきた。彼女は最近大事に育てた娘を嫁がせた母親。「淋しくて仕方ないわ。せつかく女医になれたのに。花嫁の親つて損ね。向こうに取られた気がするもの。」

「でも私達も自分の親に、そんな思いをさせて嫁いで来たのよ。今やっと親の気持ちがあつたのよ。逆に自分の親が亡くなった後、子供として親の有難味が分かり、淋しくて仕方ないもの。全ては順送りかしら」と返答した。

しかし近頃は結婚しながらない若者が増加。「おひとりさまの老後」という本もベストセラーになっている。家庭に拘束されるよりも、仕事や趣味優先。愛情の対象は専らペット。仕事を離れ、体の自由が利かなくなったら、必要な介護サービスを要求すればいいと考えている人が多い。家族や地域社会の人間関係さえ築いてこなかった者が、老後知り合ったホームの同居人や介護士さんと、果たして上手くやっていけるのか疑問である。この疑問を解く鍵はどこにあるのか？それは親から子への大切な思いが伝わったかどうかにあるのではないかと思う。

ところで私の母が亡くなって早六年経つ。晩年一人暮らしをしていた母の家を、私は月に一回掃除に訪れる。

未だ母の匂いが残る家で、「千の風になつて」をピアノで弾きながら、母と心の対話をするのが、私の幸せな時間である。デイサービスやヘルパーさんの介護サービスを受けてぎりぎりまで一人暮らしを望んだ母。救急車にも何度かお世話になった。深夜連絡が入ると、大型トラックがビュンビュン走る国道を車で飛ばして私の家へ迎えた。行きの車中では、これから寺の仕事と母の世話をどうやりくりしようかと葛藤していた。介護で明け暮れた五年間は、心の休まる暇はなかった。亡くなる二年前の寒い冬の夜、自分の足元も覚束ない母が、庭に出てアロエにビニール袋をかぶせようとした。「すべって怪我でもしたらどうするの」という私の制止も聞かず、母は杖をついて庭に出た。「アロエは雪が降るといつべんに枯れてしまうから」と頑固に言い張って、木枯らしが吹く真っ暗な中でビニール袋をかぶせた。

母の死後、誰も手入れしない庭であるが、この冬アロエが初めて赤い花を咲かせた。私はアロエに赤いまつすぐな花が咲くことを知らなかった。母が突然現れたような気がしてとても嬉しかった。あの寒い冬の夜、母が守ってくれたおかげで、アロエは見事に生き延びたのだ！母から私に介護のお礼メッセージが届いたような感動だ。

「私がポックリ死んだらお前が寂しがるからそう簡単には死ねない」と言っていた母。私の方こそ「母の最期は私が看る」と心に決め、「親の介護から逃げなかつたから、これからどんなことが起こっても、乗り越えられるような気がする」と心の中で返信した。

### キッズサンガ杉の子合唱団

◇三月一日(土) 午後四時より  
子供向けのお経、ゲーム、お菓子等  
前回はイチゴ大福を皆で作って好評！



夕方5時の鐘撞きに来た子供達  
寒さに負けず境内で元気に遊ぶ  
お寺を子供の心の居場所に！

### 三重組コーラス♪

※三月五日(水) 午前十時半陽光苑  
十二回目慰問。誰でも参加可。童謡他  
※三月六日(木) 午後一時半・智積西勝  
寺様(前御堂演奏会指揮者・歌手花月  
真先生を迎えて歌とお話、参加自由)  
※三月二十九日(土) 夜七時半練習  
七月の別院音楽祭に向けて「娘達よ」「聖  
夜」風に向かって「その他童謡など」

### ☆カンパ有難う☆

富田和代様・澤田美智江様・桜井重富  
様・谷口よう子様・他匿名様よりお志や  
切手を頂戴しました。

### ☆ホットニュース☆

☆三月十三日午前・午後「三重組十三  
日講」九年ぶりにお迎え。一日置いて、  
十五・十六日「永代経」多数お参りを！  
☆呉の富田和代様作曲・信楽峻磨先生  
作詞新曲「み仏は」完成。新仏教讃歌を  
三重組コーラスでも歌い続けましょう！  
☆三月二十日(木)夜七時・光念寺様で  
三全仏教婦人会総会。新役員紹介。  
☆三月二十一日(金)中日劇場「法然と  
親鸞」観劇。善正寺より二十二名参加。  
☆川崎弘美様が連研中央教習修了者  
の集い(京都)に参加。キッズサンガ  
の研修会(名古屋)にも参加。全国の  
法友と積極的に学びあう姿勢に感謝。  
☆四月十九日(土)午後一時半「初参  
式」を受ける赤ちゃん、幼児大募集！  
ご縁のある方誰でも可。参加費千円  
(子供用数珠・記念写真・冊子付)

### ☆編集子より☆

「善正寺だより」第一七一号をお届けし  
ます。◇NHKの朝番組「ちりとてちん」  
は若狭の塗り箸のように味のある番組  
です。二月は落語の師匠が病死します  
が、弟子たち一人ひとりに心を込めて  
「有難う」の言葉を送り、別れを惜しむ  
場面が印象的でした。◇いのちも出  
会いも限りあるからこそ「いとおい」  
という情感を大切にしたいと感じまし  
た。◇十三日講、永代経、「法然と親  
鸞」観劇、皆一期一会の大切な法縁で  
す。お出会いを楽しみにしています。

お金の季節が巡って来ました。最近小杉の在所も夏風気が変わ  
りて都会並みになってきたね。金参りや報恩講参りの季節合  
いを簡素化して楽になつたけれど何故か淋しい」といつるがチネラ  
聞えます。老人の一人暮し、子供が遠くにいる皆勤して忙しい等  
事情はいろいろですが「仏縁深き在所小杉」のイメージが薄れ、人  
関係の希薄さが目立つようになった。ワ月中旬大型台  
風4号の襲来、その翌日にはマグニチュード6の新潟中越沖地震  
が起これ多岐の方々が被災されました。一寸先は闇の現実を  
目の当たりに知らされた思いが重なり、お寺の本堂も一瞬の内崩  
壊、形あるものが失くなった時、今までそれを支えてくれた土  
な力、縁の下の土台、天井の梁、壁の筋交いなどのおおやを感じ  
ます。実はこの目に見えないものこそ確かびきりになるあり  
だったのです。外観の美しさに捕われていると必ずしも思  
わぬ被害を受けます。先日散歩時に空を流れる雲を見て  
いてふと気づいたことがあります。雲が好き勝手な方向に自  
分で動いているのたと思っていたら、実は雲を動かしているの  
は目に見えない風の方だったのです。人間にとって本言は大  
切なもの必要なものは目に見えないものかも知れません。見  
えないものこそ「見せて頂くし心の眼を磨く感性を  
養いたいものもです。八月の行事として8/18(土) 19(日)  
来代経文塚勝敏先生の又々のご出講です。三重  
組コーラス練習は8/25(土)夜2007御堂演奏会の楽譜  
CDお渡しと同時に10/15の参加がきを受付け開始します  
皆様の協力にご参加よろしくお願ひします。合掌

平成十九年八月

善正寺坊守拝